

瀬田川プランクトン調査結果速報

～第27報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当
平成19年10月1日

1. 最も数が多かった種類(優占種)

植物プランクトン第1優占種



Scenedesmus circumfusus
(イカダモ)
緑藻綱

細胞は両端に1～2本の短い突起がある。
細胞の中央に縦に一列に歯列があり、両端細胞は外側面にも歯列がある。

動物プランクトン第1優占種



Polyarthra vulgaris
(ハネウデワムシ)
輪虫類

体は四角く、横に鳥の羽状の付属物が4ヶ所付いている。
前部に2本の触角がある。

コメント

植物プランクトンは引き続き少なかった。緑藻のイカダモが最も多かった。動物プランクトンも少なく、ワムシ類に属するハネウデワムシや甲殻類に属するノウブリウス等が見られた。ピコ植物プランクトンは26,000細胞/mlと前回並みで、そのうち61%が輝橙色の種であった。

2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/1)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	30

第 2 優 占 種		個体数 (個体/1)
甲殻類	Nauplius	11

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

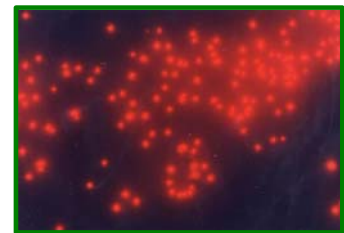
(2) 植物プランクトン

平成19年10月1日

第27報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Chroococcus dispersus</i> *	20		
(藍) <i>Oscillatoria kawamurae</i> *	1		◎
(珪) <i>Aulacoseira granulata</i>	38	○	
(珪) <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>leneata</i>	30		○
(珪) <i>Cymbella</i> sp.	10		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	20		
(緑) <i>Dictyosphaerium</i> sp.	16		
(緑) <i>Pediastrum tetras</i>	12		
(緑) <i>Scenedesmus circumfusus</i>	270	◎	
(緑) <i>Spondylosium moniliforme</i>	5		
(藍) 藍藻綱	21	4.9	91.1
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(珪) 珪藻綱	88	20.4	5.7
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	20	4.6	0.9
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	303	70.1	2.3
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	432	総体積	3.97E+06
種類数	11	(μm^3)	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)
ただし*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン
1,000倍G励起で撮影

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	10月1日	細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.		26,000

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが $0.2\sim 2\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。